

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																															
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日	山野 大星	〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																															
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日	千葉 茂	〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
工業	工科技術専門課程	ロボット科	平成27(2015)年度	-	平成26(2014)年度																														
学科の目的	デジタル技術の進歩によって、私たちの周りにはコミュニケーションロボットや、パーソナルロボットと呼ばれる今までになかった新しいタイプのロボットが次々に登場しています。かつては、工業用に限定されていたロボットの用途が多様化し、ロボットは産業界を牽引する大きな可能性を持っている分野として強く期待されています。本学科は、産業界からの意見をカリキュラムにフィードバックをして、産学連携プロジェクトや特別講義、ロボット競技会などから、実践的な技術が身に付くようなカリキュラムを用意し、「ロボットを創る(製作)・操る(制御)・楽しむ(応用)」を基本コンセプトにロボットについてあらゆる角度から学ぶ学科です。ロボットを製作し、制御し、応用するという明確な目標の中で、電子・機械など様々な工学技術、情報技術(IT)の実践的なノウハウを体得し、工業、情報、サービスなど広範な産業界に貢献する人材を育成します。いま注目のAI(人工知能)やIoT(Internet of Things)などの技術と活用についても理解を深め、今後エンターテインメントや福祉・介護をはじめ医療やメンタルヘルス/リハビリテーションといった人間と共存するシーンで活躍するロボットのエキスパートを養成します。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	産業用ロボット特別教育(検査・教示)、ビジネス能力検定(2級・3級)、高圧電気・特別高圧取扱特別教育、品質管理検定、アーク溶接特別教育 中退率:3%																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,710 単位時間 単位	780 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,110 単位時間 単位	0 単位時間 単位	60 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)																																
80人	51人	2人	4%																																
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>36</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>29</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>28</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>21</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>97</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>75</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>78</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>5</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) ジャパンエレベーターサービスホールディングス(株)、(株)菊池製作所、鈴茂器工(株)、(株)テセック、IHI運搬機械(株)、国産機械(株)、プライムエンジニアリング(株)、(株)ダイキエンジニアリング、(株)マイスターエンジニアリング、(株)アクト・セン、(株)アビリカ</p>							■卒業者数(C)	36	人	■就職希望者数(D)	29	人	■就職者数(E)	28	人	■地元就職者数(F)	21	人	■就職率(E/D)	97	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	75	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	78	%	■進学者数	5	人	■その他			
■卒業者数(C)	36	人																																	
■就職希望者数(D)	29	人																																	
■就職者数(E)	28	人																																	
■地元就職者数(F)	21	人																																	
■就職率(E/D)	97	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	75	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	78	%																																	
■進学者数	5	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 特定非営利活動法人 私立 専門学校等評価研究機構 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL: https://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>																																		
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/technology/robot/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>390 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>390 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>390 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>390 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	390 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	390 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	390 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	390 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	390 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	390 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	390 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	390 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																		
うち必修授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>0人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	2人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																		
計	2人																																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 ロボット技術に関わる企業等へのヒアリングを適時実施し、ものづくりの実務に関する知識・技術を調査してカリキュラムに反映させる。さらに、授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。常に授業内容や方法を検証することにより実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。
 本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在			
名前	所属	任期	種別
板羽 昌之	一般社団法人 環境ロボテクス協会理事長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
鈴木 康夫	ファミリーレンタリース株式会社 専務取締役	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
清水 憲一	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
菅 禎彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 ②学会や学術機関等の有識者
 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 (年間の開催数及び開催時期)
 年2回 (3月・9月)
 (開催日時(実績))
 第1回 令和4年09月15日 14:00～16:00 オンラインにて実施
 第2回 令和5年02月27日 14:00～16:00 オンラインにて実施

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
 地方ごとの課題に合わせた教育を行い目的意識と特長を生かした学習内容を検討すると効果があると考え。これは製品だけではなくサービスについても同じことが言える。
 物事を考えるとき本当に解決しようと思いとくむことが大切。理想論ではなく課題解決できることに絞り込み「製品であれば使用する人のことを思い」設計することが大切。課題解決するための技術は既にあることが多い。ターゲットを絞りほんとは使える物を造ることが重要である。人間は変わっていない。形式にとらわれないやりかた、考え方が大事であり、企業が求める人材は「チームング」を理解して実行できることが重要となってきている。製品開発には開発力、人間力、コミュニケーション力が重要でありチームングが課題解決に大きく影響している。このような意見をいただき学生と東京工科大学との共催でフレッシューズロボットコンテストを開催し日々の学びの成果発表と繋げた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社ロボットライドとの連携は、AIとIoT技術やリアルタイム制御などをロボット技術の応用に実用的面から複合知識を身につけることでロボット製作による学生作品へのレベル向上していると評価をいただく。

株式会社アトム精密との連携は、ファクトリオートメーションがPLCでは対応が難しくなっているためAIによるロボットを制御する機械学習が今後重要となる。制御の仕方に変化がきている

有限会社岩沢プレス工業との連携ではアルミ板加工において板金組立の仕上がりにおいて学生の作品の向上とデザインの高さを評価される学習内容についてアドバイスをいただく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
3D-CAD実習1	ロボットや機械の設計に欠かすことのできない3D-CADソフトの使い方や応用方法について実習形式で学びます。	プライムエンジニアリング株式会社
3D-CAD実習2	3D-CADを使ってロボットや機械を設計する手法について、さらに詳しく実習形式で学びます。	プライムエンジニアリング株式会社
テクノロジー実習1	ロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	株式会社パステルマジック
テクノロジー実習2	テクノロジー実習1をベースとしてロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	株式会社プリバテック
ロボット製作実習3	卒業製作としての位置付けで2年間の学習の総まとめとして、高度な機能を持ったロボットの設計と作り方について実習し、実際にロボットを製作します。	有限会社岩沢プレス工業

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施または、研修参加教員から情報共有することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「ゼロから始める業務DX入門セミナー」	連携企業等:	業務改革クラウド株式会社 代表取締役 与田 明氏
期間:	令和5年3月6日(月)	対象:	テクノロジーカレッジ教員を対象(ロボット科専任教員)
内容:	施策ありきにならないように、目的設定 現状の可視化 課題の分析 施策計画 施策実行 効果測定の6ステップが大事であり、目的設定は目的は誰もが理解できる言葉 言語化しドキュメントにする 現状の可視化 業務の棚卸 業務整理表をドキュメント化一部署当たり20件 現状分析 課題を明らかにする。効果測定することでDXは成功につながる。 業務DXは解消を想像以上に強化し、コアコンピタンスとなる可能性と組織の意識改革が急務であり経営者意識が変わらない会社は変わらない 自分たちで変わるとしなければならぬという考えを持って取り組む事の重要性等の知見を得る。		
研修名:	「業務改善を成功させる【kintone】導入・活用の進め方」	連携企業等:	株式会社Arinos BX事業部 Grow with Uint 熊田 みのり
期間:	令和5年3月7日(火)	対象:	テクノロジーカレッジ教員を対象
内容:	DXに移行するために「デジタル化のステップについて」解説があり。なぜ、「kintone」が注目されているのか。また、通常の業務パッケージ都の千賀を簡潔にまとめてあり理解しやすい。そして導入前失敗例と導入後失敗例をタイプ別に示し業務改善するための条件をしっかりと整理することの大切さ理解することができた。業務改善ツールとして「kintone」が話題とされ、さらにノーコード開発が今後のトレンドになるよう風潮があるがシステム設計、アルゴリズム業務分析力はやはり知識習得が重要である等の知見を得る。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第11回こども発達支援研修会 ～ADHD(注意欠如多動症)の基本と支援方法～	連携企業等:	一般社団法人こども発達支援研究会
期間:	令和5年2月17日(金)	対象:	テクノロジーカレッジ教員を対象
内容:	ADHDとは 脳機能の障害と処理 ADHDは脳機能の障害でありフィンランド、アメリカでは人口の13%を占める。日本は8% 脳の前頭葉において「実行機能、自己抑制、ワーキングメモリ」をうまく制御できない。 また、報酬系が勝り短期利益を優先した行動をとる。「脳の覚醒」を上げることで対処できる。ドーパミン、ノルアドレナリンにより注意力を向上。また、運動をすることで脳が活性化するため薬と同じ効果も期待できる。 衝動性の対応として「脳の特性のため」報酬を与えることで「成功体験を積みませ」「自己理解」してその報酬を活用して対処できるようにする。例としては時間を守る、遅刻防止に効果がある。等の知見を得る。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	デジタル立国ジャパン	連携企業等:	日経経済新聞社/ 日経BP/ デロイトトーマツグループ
期間:	令和5年5月18日(木)～19日(金)	対象:	テクノロジーカレッジ教員を対象(ロボット科専任教員)
内容	いま世界では分断と不確実性が高まり、先行きを見通しにくい時代に突入しつつあります。将来予測は不可能ですが、それでもひとつだけ、見通せる未来として、デジタル技術の活用が一段と進み、社会や人々の暮らしに深く浸透していく時代が到来します。 人々の往来が通常モードに戻りつつある今こそ、デジタル活用をもっと広く、深く、推し進めていく好機であり、複雑化する社会課題の解決に向けて、多様な分野でデジタルトランスフォーメーション(DX)を率いるリーダーが集い、国民視点での解決策についての議論を参考に今後の授業に活用する資料を作成する。		

研修名:	「NHK技研公開2023」テレビ視聴ロボット	連携企業等:	NHK放送技術研究所
期間:	令和5年6月1日(木)	対象:	テクノロジーカレッジ教員を対象(ロボット科専任教員)
内容	テレビ放送を中心に視聴者と同じ番組やHPを視聴し、ロボット(実物及びPC上)と視聴者が、感動や共感を共有し、ロボットが行動や発言で答えてくれるシステム開発など、最新技術の業界での活用を学び、授業への活用を検討する。		

研修名:	第2回ネプコン ジャパン	連携企業等:	RX Japan株式会社
期間:	令和5年9月14日	対象:	ロボット科
内容	電子機器・半導体の最先端の部品・材料、製造・検査装置のみならず、カーエレ技術、ロボット、二次電池、燃料電池などの最新技術を学ぶ。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「基礎力リサーチ説明会ならびに、今後の授業、学生対応方針検討」	連携企業等:	株式会社進研アド 営業本部 専門学校事業部
期間:	令和5年7月14日	対象:	テクノロジーカレッジ専任教員(ロボット科専任教員)
内容	新入生を対象に実施した基礎力リサーチの結果を元に、夏休み明けからの実施に向けて、学科で重点的に指導を行う点、手法を検討。実施に向けて教員間の情報共有、意思統一を図る。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について
評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・コロナ禍における学校運営の困難な中、新たな取り組み、施設面、教学面等々を伺う中で驚愕するとともに敬意を表したいと思います。殊に学生を第一義としての設備の拡充とこの時期に特に求められる学生のメンタルケアへの取り組みを評価したいと思います。また、教育マネジメント部の様々な取り組みが更なるデータ資料となり学生支援、並びに教職員の方々の意欲の向上そして学園の更なる発展へのステップとなることを期待しています。
- ・課題解決に対し、年度ごとに十分な対策をたて、設備投資が実施出来ているということは、財政基盤がしっかりとしているからこそと思います。
- ・貴校の学生に対する思いには都度感心するばかりです。学生の為に取り組まれている新しい部門(教育マネジメント部)を立ち上げた事により、現状に満足することなく、さらなる高みを目指されている事かと存じます。いろいろな分析にて貴校の状況(学生の考えや教職員の満足度等)を可視化し、評価していくのだと思います。1年、2年にとどまらず、継続して実施して頂ければと思います。
- ・卒業後の進路になる企業として、学校の取り組みやどういった人材を育てようとしているかがわかるのは非常にありがたいです。在校生だけでなく、OBの方々との繋がりも持てるようになると、更に連携も取れるかなと思いましたので、今後に期待しております。
- ・イケアとコラボされた図書館のリニューアルに驚きましたが、まだHPIには掲載されていないようなのでもったいないなと思いました。
- ・一部に改善がなされると望ましい項目もありましたが、時間を要することと思いますので、継続した取り組みがなされるとよろしいかと思えます。全体的には学校運営がなされていると感じました。
- ・貴校が真摯に学生・教育に向き合い、常に改善を図っていく姿勢が感じられました。図書館の改修をはじめとする設備の充実化も学生の学習意欲の向上に寄与すると思えます。進学を志す学生が多いことが学びを楽しめる環境であることを証明していると思えます。また、教職員の自己評価で「仕事にやりがいを感じる」との回答が多いことは、教育に対する熱意を感じますし、良い社会人を生み出す原動力になると思えます。引き続き、地域とのつながりを重視するとともに、卒業生が在籍する企業とのつながりも強化していくことで、就職率の向上と貴校のブランド力の向上を図っていただきたいと考えます。
- ・専門性を追求するカレッジ制を導入し、時代の求める真のスペシャリストを育成するために、目標や計画を実施している事が確認できました。また、社会人として必要な教養を身に着け、勤労と責任を重んずる、心身ともに健全なる技術者の育成を人材像として掲げ、取り組んでおられる事も確認できました。コロナ禍の中、継続して安定した学生数が確保されている事も、強みであると感じました。今後とも、御校から素晴らしい人材が地元八王子に貢献していただけることを、心より祈念いたします。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の4点について検討し活用する。

1. 学生満足度の向上
 - ・学生を知る活動の継続、日本工学院の独自性を発揮して生活面・感情面を充実させる。
2. 教育の質保証と向上
 - ・教職員の資質向上、満足度向上
3. 就職支援
 - 就職満足度の向上、社会に貢献できる学生の育成サポート強化
4. コロナ禍における新しい時代に向けた「高専連携・地域貢献・地域連携」を模索していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	卒業生/企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和5年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。
また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和4年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和5年9月30日

授業科目等の概要

(工科技術専門課程ロボット科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			メカニクス1	ロボットの設計や製作に必要な、機械や材料の基礎知識を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			メカニクス2	メカニクス1をベースとしてロボットの設計や製作に必要な、機械や材料の知識を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
3	○			プログラミング1	ロボットへの動きを指示するコンピュータプログラム(ソフトウェア)の基本から、その考え方、作り方について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
4	○			マイコン1	ロボットやさまざまな機器を自在にコントロールするために使われているマイクロコンピュータの基礎について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
5	○			機械製図	ロボット製作に欠かすことのできない設計図の読み方や書き方を学びます。	1・前	60	2			○	○		○		
6	○			3D-CAD実習1	ロボットや機械の設計に欠かすことのできない3D-CADソフトの使い方や応用方法について実習形式で学びます。	1・後	60	2			○	○		○	○	○
7	○			テクノロジー実習1	ロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	1・前	90	3			○	○		○	○	○
8	○			テクノロジー実習2	テクノロジー実習1をベースとしてロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	1・前	90	3			○	○		○	○	○
9	○			ロボット製作実習1	ロボットの設計をしたり、創る場合に必要基礎技術について実習し、機械加工や電子回路組み立てなどを体験します。	1・後	90	3			○	○		○	○	
10	○			ロボット制御実習1	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎について実習形式で体験的に学びます。	1・後	90	3			○	○		○	○	
11			○	ロボット応用実習1	ロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	1・通	30	1			○	○		○	○	

(工科技術専門課程ロボット科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12			○	ロボット応用実習2	ロボット応用実習1をベースとしてロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	1・通	30	1			○	○	○	○		
13	○			プレゼンテーション1	面接試験対策など、就職活動で必要になる自己表現力を身につけるために必要な事柄について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			プレゼンテーション2	社会人として必要な知識や自己表現力を学びます。面接試験対策など、就職活動で必要になる事柄について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
15			○	キャリアデザイン2	就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。また、品質管理検定やビジネス能力検定などの資格を取得できる知識を身につけます。資格取得やボランティア活動などを単位認定します。	2・通	30	2	○			○		○		
16			○	スポーツ実習2	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。またマナーや協調性などの社会的スキルの向上を目指します。	2・通	30	1			○	○			○	
17			○	二足歩行ロボット1	2足歩行ロボットを中心に、最新ロボットを実現するのに必要な技術や、創るための技術について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
18			○	二足歩行ロボット2	2足歩行ロボット1をベースとして2足歩行ロボットを中心に、最新ロボットを実現するのに必要な技術や、創るための技術について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
19	○			ロボット技術1	ロボットやさまざまな機器に使われているセンサーの基礎と周辺技術について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
20	○			ロボット技術2	ロボットやさまざまな機器に使われているアクチュエータ(モーターなど)の基礎と周辺技術について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
21			○	メカニクス3	ロボットの設計や製作に必要なメカの基礎と応用について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
22			○	バイオロボティクス	生物の動きのしくみと、それを実現する方法を学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
23	○			ロボット制御1	ロボットを正確に安定して動かすための技術について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		

(工科技術専門課程ロボット科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
24	○			ロボット制御2	ロボット制御1をベースとしてロボットを正確に安定して動かすための技術について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
25	○			プログラミング2	プログラムを応用してロボットを動かす方法などについて学びます	2・前	30	2	○			○		○		
26	○			マイコン2	ロボットやさまざまな機器に使われているマイコンの応用について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
27			○	人工知能	ロボットなどに使われる人工知能全般と、しくみについて学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
28			○	パーソナルロボット	産業用ロボットではなく、福祉・医療分野やビジネス分野におけるロボットの現状や将来について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
29	○			ロボット製作実習2	ロボットの設計をしたり、創る場合に必要基礎と応用技術について実習し、実際にロボットを製作します。	2・前	90	3				○	○	○	○	
30	○			ロボット製作実習3	卒業製作としての位置付けで2年間の学習の総まとめとして、高度な機能を持ったロボットの設計と作り方について実習し、実際にロボットを製作します。	2・後	90	3				○	○	○	○	○
31	○			ロボット制御実習2	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎と応用について実習します。	2・前	90	3				○	○	○	○	
32	○			ロボット制御実習3	基礎を身につけた上で、より実践的な技術、ロボットを動かすプログラムなどについて実習します。	2・後	90	3				○	○	○	○	
33	○			3D-CAD実習2	3D-CADを使ってロボットや機械を設計する手法について、さらに詳しく実習形式で学びます。	2・前	60	2				○	○	○	○	○
34			○	ロボットコンテスト	自分たちで作製したロボットを用いて競技会を行います。	2・後	30	1				○	○	○	○	
35			○	ロボット応用実習3	ロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	2・通	30	1				○	○	○	○	

(工科技術専門課程ロボット科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
36			○	ロボット応用実習4	ロボット応用実習3をベースとしてロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	2・通	30	1			○	○	○	○	
合計					36 科目	1650時間 74単位			単位(単位時間)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 卒業時に必修科目1500時間(68単位)および選択科目210時間(8単位)以上取得し、合計1710時間(76単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
履修方法: 1年次は必修840時間以上履修すること。 2年次は必須660時間、選択科目150時間以上履修すること。 他、1年次及び2年次の選択科目から60時間以上履修すること。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。